



たもんじ 交流農園

2020年10月号

便り Vol.31



第5回 今、ハマってます！ が、一部ちょっと

やっちまいました！ 染谷佳子さんの場合



三回目の秋植えを迎えた染谷です。

昨年の秋に植えた春採り野菜は順調に育ち、スナップエンドウ・空豆・グリーンピースはおすそ分けできる程の収穫になりました。葉物は間引きの手間が少なくなるように、心がけて種まきしたので、畑通いは楽しいものでした。しかし夏採り野菜の準備に入ろうとした頃から、世の中新型コロナウイルスで生活が一変し、思うように外出ができなくなってしまいました。でもたもんじ交流農園のおかげでステイホーム中でも畑に通い、身体を動かしたり、のんびり畑を眺めたりして、安らぎの時間を過ごすことができました。

この春は、初めてキュウリを植えてみました。一株植えれば十分収穫できると聞いていたので、本当に一株だけ植えたところ、順調に育ち、毎日畑に通って水やりしていたのですが、それでも気づいたら、大根程の大きさになったきゅうりもあってびっくりでした。農園の方に味噌汁にするといいと聞きましたので、作ってみたところ美味しい味噌汁ができました。

収穫が終わって片付けたところに土が見えていたので“秋植えが出来ます”と書いてあった枝豆を種まきをしたところ、順調に芽を出し、花も咲き大きくなったのですが、いつのまにか虫が付き、結局収穫はできませんでした。やはり、土も休みが欲しかったのかと反省しました。そして更にショックだったのは落花生です。落花生好きのナニモノカに掘り起こされてしまいました。でもまだあきらめてはいません。十月末頃に掘ってみるのを今から楽しみにしています。これからの秋植えは、土を大切に控え目に植えて楽しみたいと思っています。



新・農園のお隣さんご紹介

① 自己紹介、②育ててみたい野菜、③希望するイベントや講演会、④農園にかける想い等

区画 3-1-②

桜庭伸弘さん

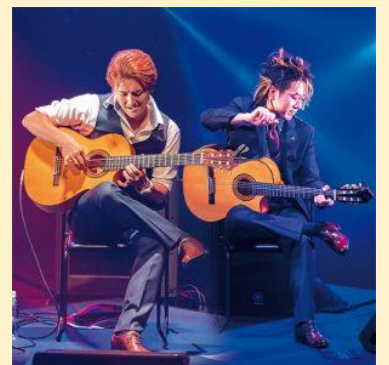


①「ドンアルマス」というスパニッシュギタードウオで演奏の仕事をしております。墨田区に住んで3年になりますが、昔から土いじりが好きで、今後の楽しみが増えました。皆様宜しくお願い致します。

②夏はとうがらしを育てます。今からの時期は、ルッコラ、リーフレタス、ブロッコリー、春菊をやってみます。

③『連作障害の予防と対策』（基本的なこと）『見た目がキレイな畑』植え方であったり、配置の工夫など。

④となりのトトロを見て、子供の頃から、もぎたて野菜に憧れていました。東京では出来ないと思っていましたが、たもんじ交流農園さんに感謝です。これからはめいっぱい楽しめます！



ドンアルマスのHPより(左が桜庭さん)

コロナ禍でも YouTube で開催！「江戸に浸かる。」

今年 2020 年の『江戸に浸かる～つなぐ・寄り添い・感じる～未来に夢。』は、9月26日(土)、コロナ禍で集合イベントが難しいことから、いつもの会場である旧向島中学校に「江戸つか放送局」を設置し、そこから、青果リレーのライブ配信、沿道のお店のご紹介や、コロナ禍でも挑戦し続ける飲食店の方のインタビュー、学生さんたちのパフォーマンス発表、てらたまと縁のある方々の歌や芸のいろいろ、そして総参加人数〇人



のりレーソング「上を向いて歩こう」などなど楽しい番組を放送しました。放送機器トラブルのため放送スケジュールが変更になりご迷惑をお掛けしましたことを深くお詫び致します。ご視聴ありがとうございました。

そしてその後一部編集をして、てらたまホームページにアップ致しました！！見逃した方は勿論、もう一度見て余韻に浸りたい方は是非覗いてみてください。(末林和之記)



YouTube

みんなを信じて、実はこっそり申し込みしていた。



4年間続けてきた「すみゆめ」のプロジェクト『江戸に浸かる。』の今年の応募締め切り時期の頃は、すべてのイベント等が自粛や中止の流れで、先を見通すことも出来ない不安だらけな時期でした。そんな中、せっかく4年続けて来たのだから今年もやろうと言う気運はひと欠片も出ず、遅れて参加したてらたま定例会では既に今年はお断りしないと決議されていました。

そんな中、悩んだ挙句勝手にこっそりと、てらたまとして応募してしまいました。9月頃にはきっと何かやりたくなることが出てくると信じて。

しかし、8月になってもなかなか積極的な意見が出て来ず、正直辛い気持ちになりました。どんな状況下でもやりたいことをやれるようにやることを工夫する事も一つの創作だし、チャンスでもあると思っていたのですが、やりたいことが出てこないのには参りました。ただ自分自身がやりたいことは、皆がやりたいことを集めて実現することだったと気づき、やれるかもしれないという方法を示すことを続けたこともあり、何とか想いをつなげられる形で終わったことにほっとしています。とにかく未来へつなげられて良かった！これもそれぞれの得意な分野を発揮して協働してくれた皆さまのお陰です！皆さん、有難うございました。(牛久光次記)。

まさか青果リレーがライブ放送される日がくるとは。

もともとはパクリ企画だ。3年前初めて農園開発資金をふるさと納税クラウドファンディングで申し込む際の返戻品として「青果リレーでアンカーを務めることができる権利(5万円)」を提案したが(その時点では誰もこの企画を理解頂けなかったが)、アイデアは24時間テレビではなく、NHK朝ドラ「ひよっこ」のエピソードから頂いた。また「青果」は企画書での「聖火」の誤変換に起因し、寺島なずに引っ掛けてそのまま突っ走った。さらにそれを江戸時代の「おかげ踊り」「ええじゃないか」は実はサンバだったという無茶な解釈で青山さんのサンバチームを最終区間ランナーに入れて頂き、講師田辺一乃さんに多聞寺の狸の悪だくみというこれまた無茶な物語として話してもらい、更に更に山本墨田区長にその悪狸を斬ってもらうという無茶な小芝居をお願いして盛り上げた。すなわちパクリと誤変換と暴走にいつくもの無茶振りから生まれた企画、それが「青果リレー」だ。



これが地域の子供たちやお年寄りをつなぐ活動として児童館さんやチームうめわかさんにご

評価・ご支援頂き、青果リレーは、初年度 2017 年 12 区間 5.6km から 2018 年 18 区画 7.4km、2019 年 30 区画 12.8km と、順調に拡大、参加頂ける人数を増やしてきた。

今年春、コロナで「江戸に浸かる。」自体の開催が危ぶまれたが、「無観客」「外にでて来ないで」と名打ち、ランナーは全員マスクにフェースガードを着用し、ソーシャルディスタンスをとって走ることに加え、寺島ナスのリレーの際には、検温してアルコール消毒を欠かさない準備をして 28 区間 13.03km を正に駆け抜けた。青果リレーは今回の「江戸に浸かる。」のメインコンテンツとなり、大庭さん、沖村さんら技術陣が全コースのライブ配信を可能にした。

出来上がったものは、いろいろあったが 24 時間マラソンや箱根駅伝と何ら変わらないクオリティだと信じて疑わない。ゴールの山本墨田区長との小芝居のグダグダも想定通りだ。一緒に走って頂いた方、無茶振りしまくった皆さん、その他ご支援いただいた皆様に感謝申し上げます。有難うございました（末林和之記）。



江戸に浸かる。は時空を超える

kisoba の沖村です。江戸に浸かる。との出会いは昨年 8 月末日に我々が墨田 5 丁目の kisoba にて町内の方を招き納涼祭を開催しているところに、青果リレー試走が通り掛かり牛久さんとお話できたことがきっかけでした。さらにその翌日にも偶然再度玄関先でお会いしそのまま「たもんじ交流農園」を案内いただき、その後、江戸に浸かる。開催前日にお手伝いに呼んでいただき雰囲気を感じ取ったのが自分にとっての江戸浸かのはじまりでした。

今年はオンライン開催ということでこれまで関わって来られた方にとっても初めての取り組みで、いま振り返れば、どう開催するのかみなさんで全くの手探りで議論をスタートしたところからの飛躍は目を見張るものがあると思います。今回感じたことは、てらたまメンバーを中心にいろんな意味で力のある方々が集結しており、「寺島ナス」をもっと広めようという「地域の未来への期待感を軸に」尽力されており、そこに自分がそのみなさんと繋がりながら未来への展望を共有しながら参加できていることにとても幸福感を得ていることです。

それから年に 1 回の「お祭り」がまた今年も地域のみなさん同士を繋げているという「地域が活きている」ことを実感できたこと、そしてオンラインでやり切った江戸に浸かる。が時空を超える術を手に入れたことの期待感です。課題はもっと多くの方に視聴してもらうことですが、これは来年以降の時間が解決してくれるものと思います。（沖村徹也記）



素敵な人の集まりだからできた奇跡！



今年は「江戸つか」は無理だろうなあ。コロナで非常事態宣言が出て日常が送れない日々で思っていた。我が子の卒業式や入学式ですら保護者が参加出来ない…部活は次々と大会が中止になり、3 年生は活躍の場を失ったままで、そのまま引退に。このままで良いのか、何か出来ることはないのか…

モヤモヤしていた夏に、思いついたこと。オンラインによる「江戸に浸かる。」なら彼らに活躍の場を作る事が出来て、そしてこれまで積み重ねてきた仲間との気持ちを繋いでいけるのではないかと。とは言え、顔も合わせられず、気持ちの上から

で、何をしたら良いのか悩みに悩みました。

そんな中「江戸つか」は、いつでも自分のやりたいことを叶える場だったことを思い出し、今年はそれさえやれば良しとしようと思って相談。「リレーソングをやりたいんだけど。」「??」動画で見たことのある福島のリレーソングのような事をやりたい！歌でみんなが繋がれる事を証明したい。自分はパソコンは苦手。でも、強い味方を得て、とにかく企画を考え、いろんな人たちに SNS や LINE で伝えては、その人の話を聴く毎日。思いのほか、たくさんの方が関わっていたんだなあと改めて思う。

橘高校エンタメ部と寺中落語研究部の子ども達のやる気に背中を押されながら、自分のやりたいことを形にしていく。その繰り返しでした。

思えばラジオパーソナリティは昔からやりたかった事だし、教室で落語会をやるのは高校生の時の経験を大人の人達が本気で向き合うことで更にパワーアップした感じ。当日いろんな事が起きたけど、ゼロから始まり、あそこまで出来たのは、むしろ奇跡だと思っている。江戸つかが素敵な人達の集まりだから出来た奇跡。

ご参加下さった皆さまに本当に感謝、感謝です。(佐々木直子記)



えどでつながる！



普段はお仕事として、アート/商業/イベントにとっぴり浸かっている僕からの目線ですが… 冠婚葬祭・イベントというと。伝統に則ったり、枠組みはプロにおまかせ、とか 用意された舞台上に載るだけ、とか、内容は閉じられた集団だけで完結する、というのが多いです。

ところが、「えどつか」はそうじゃなくて、「言い出しっぺがヤル」という暗黙ルールも伴って、そりゃもう皆さん前のめりになって、さまざまな町の人もまきこんで、さらに、それを自治体がバックアップしてるという不思議の掛け算。僕は、すみゆめ事務局より参加団体の技術的なお手伝いをする人という役割なんですけど「えどつか」では、「構想10年！制作費3億ドル！台本は当日！」みたいな暑い（誤変換にあらず）プランに「無理です！できません！」と泣きながら、「みんなのやりたいことを叶えてあげたい！」とキラキラした目をヒゲの人にみつめられ、限られた条件の中で、ひーひー言ってる気がします…

ともあれ、「いろんな参加者」が「やりたいことを」「できるだけ頑張る」ということ「いろんな人と繋がって」「実行できちゃってる」。そこが一番不思議ですね、何の力が働いてるんだろ？ なにこの大人の文化祭。全国探しても、こんなのどこにも無いですよ。もはや「えどでつながる」だよなあ と、振り返り回となった今年に思うのでした。(大庭圭二記)

水口アドバイザー来園日…11/15(日) 10:00~16:00 (落花生の収穫も予定しています)
12/12(土) 10:00~16:00

耕作チーム作業日:このところ原則毎週土曜日 9:00~11:00(収穫・虫取り・土作り他)



たもんじ交流農園便り
No.31-般 2020.10.31 発行
題字 田村風来門
編集 末林和之



HomePage

てらたま協議会
(NPO 法人 寺島・玉ノ井まちづくり協議会)
問い合わせ先 小川 剛(080-3421-3115)

セブン-イレブン記念財団



Facebook